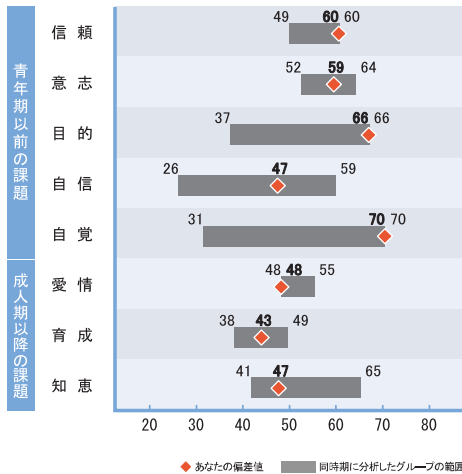


アイデンティティの成熟度

エリクソンの理論をベースに、アイデンティティの成熟度(いわゆる「大人度」)を発達課題のクリアの程度によって測ります。

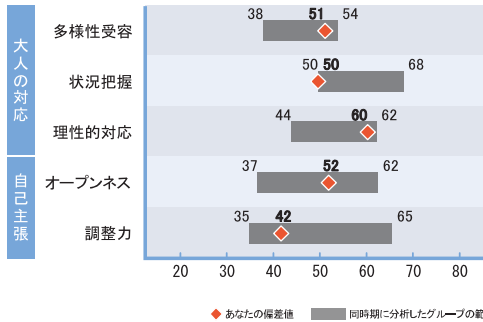


青年期以前の課題に注目して見てみると、平均的に高いレベルで達成できているようです。しかし、課題間で達成度のバラツキが見られるので、達成度の低い課題には注意が必要です。

注意すべき課題は「自信」です。いざとなったら自分自身の力で何とかできるという確かな気持ちもせず、自立している実感を抱けずにいるのではないのでしょうか。これまでのキャリアの中で、得意なこと、うまくいったことを振り返って整理し、自分自身の強みを客観的、具体的に把握してみることも大切です。

社会的スキル

人と接するときの態度やスキル、いわゆる「社会性」の程度です。「大人の対応」の側面と「自己主張」(アサーティブ)の備わりから測ります。

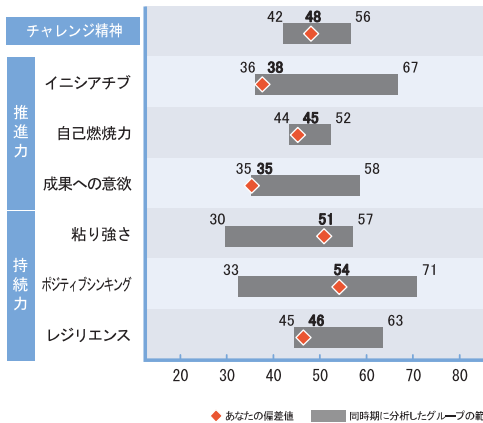


「大人の対応」の3つの要素を見てみると、平均的にさした問題ないレベルです。しかし、要素間で点数の高低がバラついていますので、低い点数の要素には注意が必要です。「理性的対応」はプラス面としてあげられます。予想外な事態やストレスフルな状況に直面しても、冷静かつ理性的な対応ができるようです。

「自己主張(アサーティブさ)」の2つの要素を見てみると、平均的にやや低いレベルです。しかし、要素間で点数の高低がバラついていますので、個別に注意する必要があります。個別の要素では「調整力」はあまり高くありません。人と人や部門間の問題を、関係者の気持ちを汲みながらうまくまとめたり、調整したりすることは苦手なようです。調整が必要な場面は誰にでもあります。状況に応じて力を適切に発揮できるようになることが大切です。

バイタリティ

人間力の基礎を支える心理的なエネルギーの程度を「チャレンジ精神」「推進力」「持続力」の3つの側面から測ります。



新しい経験や未知なことに対しても、積極的にチャレンジしようという気持ちは、やや弱いようです。

「推進力」の3つの要素を見てみると、平均的に低めレベルです。しかし、要素間で点数の高低がバラついていますので、個別に注意する必要があります。個別の要素では「成果への意欲」はあまり高くありません。淡泊な面があるようです。リスクをとってでも成果や結果を出さなだという「がむしゃらさ」も欲しいところです。

「持続力」の3つの要素を見てみると、平均的にさした問題ないレベルです。個別の要素では「レジリエンス」はあまり高くありません。ストレスを引きずることもあるようです。自分なりのリフレッシュのすべを身につけるなどして、ストレスにうまく対処することが大切です。